

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームほたるの里		
所在地	山口県萩市大字須佐1378-1		
電話番号	08387-6-3168	事業所番号	3578100376
法人名	社会福祉法人 寿幸会		

訪問調査日	平成 21 年 3 月 23 日	評価確定日	平成 21 年 6 月 10 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人 非常勤 2 人 (常勤換算 8 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家 賃	月額 9,000 円	敷 金	無 円
保 証 金	無 円	償却の有無	無
食 費	朝食 200 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 円	
その他の費用	月額 27,000 円		
	内訳 光熱水費		

(4) 利用者の概要 (3 月 23 日現在)

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
	要介護 1	要介護 4	1
	要介護 2	要介護 5	
	要介護 3	要支援 2	
年齢	平均 85.8 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 すさクリニック 松井医院 斎木病院 歯科 仁保歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

職員全員が、利用者の思いを尊重した関わりを最も大切にして、一人ひとりの希望や意志で自由に自分らしく過ごせるよう支援されています。このことは、利用者の方々の明るく穏やかな安心感のある表情から伺えました。食事は、地元の食材を利用し、三食とも事業所内で調理し、休日には一緒におやつを作り、「ホーム喫茶」を開いてティータイムを楽しんだり、移動図書館を活用するなど、楽しみごとの支援をされています。

(特徴的な取組等)

避難訓練は、法人全体で年1回実施されていますが、それに加えて、事業所独自でも毎月実施され、いざという災害時に向けた対策を構じておられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

事業所独自の理念の作成、救急救命訓練の実施、薬剤ファイルの作成等、改善に努力されています。

(今回の自己評価の取組状況)

職員が自己評価書を分担して記入し、管理者が取りまとめたものを全員に供覧されています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回、地域住民代表、地域包括支援センター職員、家族、利用者の代表等で開催され、利用者の状況報告や意見交換をして、事業所へ入る道の修復、物品の調達、職員の接遇等、具体的改善に活かされています。

(家族との連携状況)

毎月発行している「ほたるの里便り」の一コマに担当職員が利用者一人ひとりの暮らしぶりなどの近況を書き添えて報告しています。金銭出納簿、請求者、領収書、市からのお知らせ等も同封しています。利用者、家族の意見等は、運営推進会議や面会、電話の機会にしっかり聞くようにし、苦情相談窓口、第三者委員、外部機関も明示されています。

(地域との連携状況)

自治会には加入していませんが、ふるさと祭り、そばの花祭り、道の駅フェスタなどの地域行事に参加したり、利用者それぞれの自宅方面へドライブして、地元の人々との交流に努めておられます。地域イベントには、職員も手伝いで参加しておられます。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	昨年度の外部評価結果を受け、事業所独自の理念を作成しているが、地域密着型サービスとしての理念になっていない。「地域や家庭との結びつきの重視」という法人の基本理念に基づいた支援をしている。	○	・地域密着型サービスとしての理念の検討
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関、事務室に掲示すると共に、月1回のスタッフ会議で管理者が言葉で伝え実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会には加入していないが、ふるさと祭り、そばの花祭り、道の駅フェスタなどの地域行事に参加したり、利用者それぞれの自宅方面へドライブし、地元の人々との交流に努めている。地域イベントには、職員も手伝いで参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員が自己評価書を分担して記入し、管理者が取りまとめたものを全員に供覧している。職員全員で自己評価の検討をしたり、外部評価結果を活かした具体的改善策の検討や取組が不十分である。	○	・評価の意義の理解と活用の検討
5 (10)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回、地域住民代表、地域包括支援センター職員、家族、利用者の代表等で開催し、利用者の状況報告や意見交換をして、事業所へ入る道の修復、物品の調達、職員の接遇等、具体的改善に活かしている。		
6 (11)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	平成21年度から、2ヶ月に1回、市が開催する居宅事業所等関係機関の連絡会議に出席し、情報交換などを行ってサービスの質の向上に努めることにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制				
7 (16)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行している「ほたるの里便り」の一コマに、担当職員が利用者一人ひとりの暮らしぶりなどの近況を書き添えて報告している。金銭出納簿、請求書、領収書、市からのお知らせ等も同封している。		
8 (18)	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	利用者、家族の意見等は、運営推進会議や面会、電話の機会にしっかり聞くようにしており、些細な意見も記録して職員や法人全体で検討して、サービスに反映している。苦情相談窓口、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理手続きを明確にしている。		
9 (20)	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中、3名勤務を基本にして、利用者の要望になるべく添えるようにしている。必要時には、管理者を中心に話し合い、柔軟に対応している。併設の特養から応援を得ることもある。		
10 (21)	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職や異動は最小限に抑えている。職員の異動が決まれば、なるべく一週間くらい前から重複勤務を行い、利用者へも知らせ、ダメージを少なくするよう努めている。		
11 (22)	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で研修計画を作成し、内部研修は、月一回の全体会を利用して、救急救命法や応急処置、接遇、感染症等を行っている。外部研修も管理者が指名したり本人の希望により、勤務扱いとして参加の機会を提供している。		
12 (24)	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	下関地域グループホーム連絡会に参加して、勉強会や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期 待したい 項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には、本人、家族と面談し情報を得た上で、見学や体験入居をしてもらい、徐々に馴染めるよう工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、野菜づくり、食事の味付け、昔の諺の意味などについて、職員が利用者から学ぶことも多く、互いに支え合う関係を築いている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの意向を把握し、本人の希望する生活を尊重した支援を行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の希望を聞き、計画作成担当者が介護計画を作成しているが、作成時に、家族、職員、必要な関係者との意見交換がされていない。作成した介護計画について、家族等への説明が不十分である。	○ ・介護計画作成方法の検討
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月1回、ケース会議をもち、3ヶ月毎、定期的に見直している。変化が生じた場合は、現状に即した新たな計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力医療機関への受診、自宅付近へのドライブ、墓参り、美容院への送迎など、希望に応じて柔軟な支援に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員、協力医療機関がかかりつけ医になっており、家族と連携しながら、職員が定期的に受診介助を行っている。眼科などへの受診は家族が行っている。		
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合、事業所では対応困難なため、家族と話し合い、利用者にとって最も適切な場所で医療や介護が受けられるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損なうような言葉かけや対応はしないように配慮し、気付いたときには、職員間でお互いにその場で注意し合っている。個人記録の保管や取り扱いに配慮している。トイレ入口の戸やカーテンが閉まらないようになっている。	○	・トイレのプライバシー確保
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体操やレクリエーション、行事については、声かけはするが、強制はせず、利用者一人ひとりの希望やペースに合わせて支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	地域で採れる食材を利用して、一人ひとりの好みや力を活かしながら、三食とも事業所内で手作りし、利用者と職員と一緒に準備、食事、後片付けをしている。		
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	2日に1回、利用者の希望や体調に合わせて入浴を楽しむことができるよう支援している。入浴時間の長短も好みにより自由に楽しみ、洗身介助や衣服の着脱は状態に応じて支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑の野菜づくりや花植え、調理の下ごしらえ、洗濯物干しやたたみ、買い物、ドライブなど、一人ひとりの得意なことや趣味を生かして活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブなど、その日の希望に沿って外出支援している。ドライブが好きな人が多く、近い所には週1回位、遠方にも花見など折々に出かけている。個別支援も行っている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。事故報告書やヒヤリはっと報告書を記入し、早急に対応策を検討して再発防止にも取り組んでいる。	
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	併設施設の看護師により、AEDの使用法等応急手当や初期対応の研修や訓練を行っている。	
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人全体で年1回、地域の協力員も参加して避難訓練を行っている。事業所独自でも毎月1回行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬ファイルを作成し、一人ひとりが使用している薬品名、効能、副作用等を理解し、職員が手渡しして服薬を確認している。必要な情報は、かかりつけ医に報告している。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	朝夕は必ず、うがい薬を使用し、歯磨きも一人ひとりの力に応じた支援をしている。歯ブラシや義歯の清掃保管についても支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食後、食事・水分摂取量を記録して、栄養や水分が確保できるよう支援している。献立は管理者が担当し、併設施設の栄養士にアドバイスを受けながら、一人ひとりにあった食事が提供できるよう努めている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症予防マニュアルに基づき、手指消毒、うがいなどを行い、感染症予防に取り組んでいる。調理用具等の衛生管理にも留意し、食材は、毎日購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングには掘り炬燵があり、玄関や食卓、トイレに季節の花を生けたり、壁には手作りの雛飾りなど利用者と一緒に作った季節毎の壁絵が貼られ、居心地良く過ごされるよう工夫している。加湿器を設置し、湿度や換気にも配慮している。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、使い慣れた家具や好みの置物等を持ち込み、居心地良く落ち着いて過ごせるよう工夫している。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム ほたるの里
所在地	山口県萩市大字須佐1378-1
電話番号	08387-6-3168
開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

① 入所者の思いを尊重し負担のないような援助を行う。 ② 室内でじっとしていないよ、可能な限りが外出を行っている(ドライブ・買物)。 ③ 地元の安全な食材を利用し、利用者に食べたいものを聞き、職員が料理を作っている。 ④ 職員は勤務終了後には必ず1人1人に挨拶をし退所する。 ⑤ 毎月避難訓練を行い災害時に備えての練習をしている。

【実施ユニットの概要】 (2 月 18 日現在)

ユニットの名称	グループホームほたるの里				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの利用者数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
	要介護 1	0	要介護 4	1	
	要介護 2	6	要介護 5	0	
	要介護 3	2	要支援 2	0	
年齢構成	平均 85.8 歳	最低 78 歳	最高 93 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	1: 評価項目を職員に読んでもらい意識してサービスを行ってもらうようにする。
評価確定日	平成 21 年 3 月 23 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1) <u>〇地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念として地域社会との結びつきを大切にし地域に密着した施設を目指す。を掲げている、例：地域で行われる行事の参加、地元のへの買物(スーパー・専門店・道の駅)、地域のボランティアの受け入れ。地域の運動会の見学。	☐	
2 (2) <u>〇理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者は職員と同様の業務内容を行い業務内容、プランに付いて一緒に取り組んでいる。	☐	
3 <u>〇運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	介護室のドアに提示してある。	☐	意識して日々の援助を行っていきたい。
4 <u>〇運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	利用者が安心して又安定した生活が過ごせる様小さい意見から話し合いを行い、会議を持って話し合いを行っている。	☐	トイレの手擦りが欲しいと意見があり手擦りを設置。
5 <u>〇家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域でのイベントに参加し顔なじみの人と会うことや、自宅訪問などで今までのつながりを切らないようにしている。	☐	自宅や出身地に行きか顔なじみの人とも交流が行えると良い。
2. 地域との支えあい			
6 <u>〇隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。	行っている。	☐	
7 (3) <u>〇地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		☐	
8 <u>〇事業所の方を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域で開催されるイベントに手伝いとして参加している。(ふるさと祭り・そばの花祭り)	☐	職員もイベントに参加し、イベントを通じ利用者と地域の交流が密になればよいと思う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	○	グループホームに入る道が悪く、会議毎意見が出されたが1月に道が修繕された。
11 (6)	○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	予定表を頂き出席していく。
12	○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	言葉の虐待にならないよう注意して行きたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	○	
15	○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	○	
16 (7)	○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	○	ほたるの里便りで利用者の様子を連絡している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ <u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	運勢推進会議の資料は玄関においてありいつでも見られるようにしてある。特に情報開示の要求はない。	○	要求があれば実施して行く。
18 (8)	○ <u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営規定に記載してあり、窓口に提示してある。苦情や意見等はなかった。	○	些細な意見も記録として残しサービスの質を向上して行きたい。
19	○ <u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム会議で意見や提案を は 発言してもらい、早急に対応できる意見は会議で話し合い決める。例:施設の環境美化の徹底等。	○	
20 (9)	○ <u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	電話・携帯で随時連絡が取れるようにしてある。管理者に連絡が入り管理者が調整を行っている。		
21 (10)	○ <u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動が決まれば1週間くらい前から時間の都合がつけば一緒に業務を行う。利用者にも連絡する。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○ <u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修や施設内研修を行っている。		
23	○ <u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	行っている。		
24 (12)	○ <u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	本年度は行っていない。	○	他の施設への研修を行いマンネリ化を防ぎモチベーションをあげたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	話をじっくり聞き、可能な限り仕事を続けていけるよう配慮している。(勤務表等)	○	
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。			
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	特にありませんでした。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	特にありませんでした。	○	家族の抱えている不安はゆっくり話を聞いて行きたい。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	特にありませんでした。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	1日一緒に過ごしもらい、本人、家族、対応した職員の意見も聞く。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	調理の準備や畑の草引き、洗濯物干し、他等と一緒にやっている。	○	本人が行える仕事を一緒に行って本人のやる気をなくさないようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族との交流をもう少し密にしていきたい。
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	○	生まれ育った父域でのドライブは定期的に実施して行きたい。
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○	会話の中で発掘される内容を記録に残しサービスに反映して行きたい。
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○	毎朝のバイタルチェックを行い入浴前のバイタルチェックも行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○<u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	家族から具体的な意見が聞けるようにしたい。
42 (17)	○<u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
43	○<u>個別の記録と実践への反映</u> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	些細な繁華の記録も残すようにして行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○<u>事業所の多機能性を活かした支援</u> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○<u>地域資源との協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		
46	○<u>事業所の地域への開放</u> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		
47	○<u>他のサービスの活用支援</u> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<u>○地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		今後必要性があれば行っていく。
49 (19)	<u>○かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<u>○認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<u>○看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	定期的の行い健康状態を把握していきたい。
52	<u>○早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<u>○重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<u>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<u>○住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取 組んでいき たい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	<u>〇プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	○	定期的にも直しをし気をつけて行きたい。
57	<u>〇利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
58	<u>〇“できる力”を大切に家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		調理では食材、調理の下準備(もやしの根鶏、ごますり、豆の皮剥き)等、洗濯では洗濯干し、洗濯たたみ、掃除ではモップ賭け、自室のはき掃除等を利用者に出来る力を大切にしその人に応じた家事を支援して。
59 (22)	<u>〇日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。		業務内容にある体操やレクは声を掛け一緒に行っているが強制ではなく本人の意思を確認している、食事以外の時間は一人ひとり自由に過ごされている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<u>〇身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		散髪は2ヶ月に1度移動理髪店により行っているが、昔からのなじみの美容院でカットされる人もあり職員が移動介助している。
61 (23)	<u>〇食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		配膳の時間になれば「手伝おうか」と手伝われる、職員と一緒に配膳している。片付けはお膳をカウンターまで持って来られる人もあるがほとんど食べたら自室に帰られるかテレビを見られる。
62	<u>〇本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		日曜日のおやつは利用者の好きな「しるこ、ホットケーキ(あん入り)等手作りおやつをしている。タバコをされる人はいない、お酒は正月、雛祭り等行事の時にはある。
63	<u>〇気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		トイレ誘導が必要な人の排泄間隔を把握し声をかけ介助している。出来るだけ自分から言えるよう援助している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	2日に1度午後より入浴、本人の体調や希望、により入浴を行っている。入浴時間も強制せず長風呂、速い人もおられる。又洗身介助、着脱も状態に応じて介助している。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	1日の流れの中で休息時間は決まっているが、横になりたい時休んでもらっている。又夜間の入眠も様々であり眩しくないようカーテン等で光を遮断している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	自分の好きな仕事をいしょに行いは一緒に楽しむようにしている。畑の野菜作り、花植え、洗濯物を一緒にたたむ、買物をする。ドライブを行い外出する事でその場その場の説明を聞く。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望によりこずかい程度は所持され、ジュースやお菓子を購入されている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買物・ドライブに行きたいと希望があれば対応している、一緒で行うときもあり1対1で行う時もある。近くは週1回位は外出をし花見の季節になると少し遠方(萩・益田方面)にも行く		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	津和野稲荷神社に家族と一緒に外出した。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけて欲しいと希望があれば対応している。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人が訪問された場合自室や食堂で対応している。面会室がない為大人数の時は自室では窮屈である。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊室はないが宿泊の場合は利用者の部屋にて宿泊できる、寝具類は常に準備してある。本年度は御利用はなかった。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年1回の家族会で津和野稲荷神社に参拝し食事をした。家族の参加されない利用者は寂しい思いをされた。	○	家族会の回数を増やし全員の家族が参加できるよう早めに連絡をする。
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	とっさの時に「ダメ・いけん」という時がある。	○	意識して気をつける。
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間、玄関のみ鍵をかける。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は1時間置きに確認、日中は定期的に声を掛け合い確認している。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ハサミを持っておられる利用者は自己管理されている、裁縫される利用者には針を1本のみ渡してある、針は必ず糸に巻いておくよう伝えてある。	○	定期的に確認している
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	1人1人の状態に応じた取り組みは行っていない。	○	項目別に事故防止に付いての取り組みを行って行きたい。
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	看護師指導により全体会において実施している。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故発生やヒヤリハットは事故発生時に記入し早急に対策を考えている。転倒やすり落ちでは声掛けや付き添い介助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害による避難訓練を月1回行っている。火事災害を想定し安全な避難場所での移動を行っている。年1回ささ苑全体で地域の協力員も参加され避難訓練が行われる。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	緊急な状態が発生した場合、かかり付け医に連絡し救急の対応を行うことを伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック、月1度の体重測定を行っている、異変が起きれば緊急受診行い検査等行う、家族にも随時報告する。病院を変える場合は家族の同行を依頼している。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	処方された内服の薬品名や薬の作用、副作用を確認するようにしている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	朝食にはバナナを摂取し水分もしっかりも飲めるよう声掛けしている、又調理にも野菜をしっかり利用するようにしている。どうしても便秘気味であれば主治医と相談しない服を処方してもらう。運動として出来るだけ歩くようにしている。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	朝夕はコロロによるうがい全員しているが歯ブラシによる口腔ケアは自力の利用者は声掛けのみで介助の必要な人は介助している。自立の人は不衛生である。	○	毎食全員が行えるようになると良い。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食時量・分食量での摂取量チェックを行っている。献立は栄養士に確認してもらいバランス良く栄養が摂取できるよう確認してもらっている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	食事前にはハンドクリーンで手指消毒している。感染症のマニアルに従って予防、対策をしている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手の消毒・調理器具の乾燥消毒・毎回ごとふきんのハイターによる殺菌消毒・調理後はシンクや調理台の清掃を行っている。食材は毎日購入している。	○	冷蔵庫の清掃を定期的に行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	<u>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物周囲の草刈をしたり木の伐採をして明るくしている。	
91 (36)	<u>○居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関・トイレ・食堂に季節の花を飾っている。食堂ホールには季節ごとの壁絵を一緒に作っている。	
92	<u>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂と廊下が一体化になっていて間にアコーディオンカーテンがあるが普段は閉めている。ソファを2ヶ所設置しており新聞を酔ううたり、他の利用者と会話をされている。	
93 (37)	<u>○居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	泊まりの部屋は設備されていないが、自室に寝具を運べば宿泊されるよう寝具は用意されている。自室には自分の使いたれた家具や好きなものを置かれて居る。	
94	<u>○換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気空調の清掃は年2回行っている。温度調節は夏27度、冬21度で対応し食堂に加湿器を設置している。	○ こまめに窓を開け換気をする。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<u>○身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	浴槽内の手すり。トイレの手すりを設置し、移動が安定して行え自立した生活の援助が出来るようになった。	○ 住居内でまだ手すりなど改修することで自立援助が出来る箇所はないか検討する。
96	<u>○わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	調理の手伝い、食事の時の準備、片付け、清掃、洗濯物干し、洗濯物たたみ、野菜。花の植え付け収穫を一緒に行っている。	
97	<u>○建物の外周や空間の活用</u> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	施設横にミニ野菜畑があり、収穫しやすい野菜を植え付け、野菜作り、草引きや肥料まき等行い収穫を楽しんでいる。さつま芋。玉葱、ほうれん草、春菊、トマト他栽培した。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの ②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある ②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと ②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに ②数日に1回程度 ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない ②少しずつ増えている ④全くいない
108 職員は、生き生きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが ②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等と ③家族等の1/3くらいと ②家族等の2/3くらいと ④ほとんどできていない